

# 令和6年度 学校評価実施状況

京都教育大学附属高等学校

## 1. 活動状況

令和6年10月	教育目標と具体的な取組自己評価（中間）作成
令和6年11月	第1回学校評議員会実施
令和6年12月	3年生保護者・生徒アンケート実施
令和7年1月	1, 2年生保護者・生徒アンケート、教員アンケート実施
令和7年2月	教育実践研究集会参加者アンケート実施 教育目標と具体的な取組自己評価（最終）作成
令和7年3月	第2回学校評議員会実施・学校関係者評価実施 学校評価結果及び改善策取りまとめ

## 2. 教育計画（年度重点目標）に関する具体的な取組についての評価

重点目標	(1) 基礎・基本の徹底を基盤としたうえで、教科間連携を充実させ、生徒の総合的な学力向上につながる探究型授業の確立
具体的な取組内容	(1) - 1 各教科における基礎・基本の徹底を基盤とし、自らの課題を設定し、問題解決に活用できる総合的な学力を育成する。
自己評価区分	A：十分達成できた
自己評価内容	学年、教科、分掌が連携し、基礎学力の定着と家庭学習習慣の確立を図った。基礎・基本を徹底させたうえで、生徒同士が協働して学びあう授業を効率的に組み合わせ、生徒が主体的に学習に取り組む態度の育成に努めた。
学校関係者評価内容	学習の楽しさを感じさせ、学びの意義を理解できるような指導に努めている。今後も、教員間での連携を図り、生徒の総合的な学力の育成に努めてもらいたい。
改善策	学年、教科、分掌の連携をさらに強化し、生徒の総合的な学力向上を図る。

重点目標	(1) 基礎・基本の徹底を基盤としたうえで、教科間連携を充実させ、生徒の総合的な学力向上につながる探究型授業の確立
具体的な取組内容	(1) - 2 教科間の有機的なつながりを強化し、思考力・判断力・表現力に加え、読解力の育成を目指した探究型授業を実践し、高大接続改革で求められる学力を定着させる。
自己評価区分	B：概ね達成できた

自己評価内容	各教科において、思考力・判断力・表現力を育成する授業を展開した。特に1年生の総合的な探究の時間では探究の基礎として論理的に文章を読む力、書く力の育成を図った。また、「問いを立てる」を主題に取り組み、2年次の探究につなげようとしたが、テーマ決定までには至らなかった。テーマ決定は次年度に持ち越しとなった。2年生の総合的な探究の時間では、各自（グループ）のテーマに沿って探究活動を推進した。教科横断的に知識を融合している部分や、他者と協働しながら探究を進めることは、最終的な発表でその成果が見られた。ただ、教員間・学校全体で教科横断的な関わりは十分とは言えない。今後の継続的な課題である。
学校関係者評価内容	探究活動は、中高一貫校としての教育課程の柱と聞いている。高校内での取組はもちろん、中学校との連携を今後さらに充実させることを期待する。
改善策	現在進行中の中学校での課題探究への3名の高校教員派遣は継続するとして、京教リベラルアーツアクティビティにおいて、主に中学3年生も含めた取組に拡大できないか検討していく。

重点目標	(2) 生徒一人ひとりを大切にし、それぞれの希望進路の実現に向けた、計画的な進路指導及び支援体制の確立
具体的な取組内容	(2) - 1 学年、分掌の綿密な連携を基盤とした指導体制のもと、個々の生徒に適した進路指導を実践し、生徒一人ひとりの進路実現に向けたきめ細やかな支援を図る。
自己評価区分	A：十分達成できた
自己評価内容	学年と教務部、研究部が連携し、生徒個々の進路実現に向けて、校内外の様々な情報収集と、模擬試験データなどをもとにした個人面談資料の作成を行い、進路指導に役立てた。必要に応じて、個別面談、保護者面談を行った。 総合型選抜の志願者の増加は継続しており、志望理由書をはじめとする出願書類の指導や模擬面接、推薦書の作成など、教員の負担はより大きくなっている。
学校関係者評価内容	生徒個々に応じた、きめ細やかな取組がなされている。教員の負担が一部の教員に偏らないように工夫をしてほしい。
改善策	模擬試験業者の担当者を活用し、最新の入試情報を収集するとともに、教員間で共有できるシステムを ICT 機器の活用により構築する。現在、教務部進路係、3年担任に偏っている模擬面接や自己推薦書の指導を、他の学年や分掌と分担する。

重点目標	(2) 生徒一人ひとりを大切にし、それぞれの希望進路の実現に向けた、計画的な進路指導及び支援体制の確立
------	---

具体的な取組内容	(2) - 2 3年間の進路指導計画に沿った進路ガイダンス、進路ホームルームなどを通じ、生徒、保護者に対して、適切な進路情報を効果的に発信する。
自己評価区分	A：十分達成できた
自己評価内容	教務部進路係主導による3年間を見通した進路指導計画を立案し、ガイダンスや模擬試験などを計画的に実施できた。また、多くの大学の協力のもと、生徒・保護者対象の大学別説明会を実施し、多くの生徒・保護者が参加し、大学関係者に直接質問や相談のできる機会を設けた。予備校の協力を得て、保護者対象に最新の入試動向や受験を控えた子どもとの接し方などの講演会を実施し、好評であった。
学校関係者評価内容	適切な時期に、適切な情報を発信できている。生徒が多様化し、進路希望も多様化してきていると思うが、国立大学の附属高校として教員一丸となって、生徒が主体的に国公立大学進学を目指したいと思わせるような指導を期待する。
改善策	今後もより最新で正確な情報収集に努め、適切な時期に、適切な情報発信に努める。

重点目標	(3) 社会人としての素養を身に付け、自律的で高い人権意識を持った生徒の育成
具体的な取組内容	(3) - 1 教育活動や自主的な活動など様々な機会において、自律した人間として自己管理ができる生徒を育成する。
自己評価区分	A：十分達成できた
自己評価内容	<p>基本的な生活習慣を確立させる指導として、理由のない遅刻・欠席の多い生徒への個別指導、毎朝の校門指導、服装・身だしなみの指導を、学年・生徒部を中心に、年間を通して継続指導を続けた。保護者と連携しながら、生徒の自己管理能力を高めるよう指導した。</p> <p>文化祭や体育祭など、生徒が自主的・自律的に活動できる機会を設け、他者との協働を通じながら、自律した人間として自己管理ができる生徒の育成に努めた。</p> <p>高校在学中に成人を迎えることとなるため、1，2年生次より、主権者意識を持たせるため、社会人講師を迎えた講演会などを実施した。</p>
学校関係者評価内容	学校行事の多くを、生徒主体で取り組ませるなど、自律と協働の意義づけがなされており、十分に評価できる。
改善策	基本的な生活習慣を確立させることは大切であるが、生徒一人ひとりが自主的・自律的に確立できるよう、支援できる体制を強化する。

重点目標	(3) 社会人としての素養を身に付け、自律的で高い人権意識を持った生徒の育成
------	--

具体的な取組内容	(3) - 2 他者と協働する様々な活動を通して、自己理解を深めることで多様性への理解につなげ、高い人権意識を持った生徒の育成に努める。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	学年と分掌の連携のもと、6月と11月の2回、人権学習を実施した。1年生は、ネット社会における人権問題、ハンセン病をテーマに学習した。2年生は、6月に研修旅行で北海道を訪問するためアイヌ問題について事前学習をしたうえで、アイヌ資料館を訪問した。11月は4つのテーマに分かれ、現地訪問するフィールドワークを実施した。3年生は、生きる権利とアイデンティティに関する学習、障がい者問題について学習した。 また、平日頃よりホームルーム活動や授業、学校行事、部活動等を通じて、人権意識の向上を図っている。
学校関係者評価内容	学校全体として、人権意識の向上に努めている。今後も研修と研鑽に努めてほしい。
改善策	学校全体はもちろん、分掌、学年、教科単位で、人権について考える機会を設け、いじめを許さない学校づくりをより一層推進していく。

重点目標	(4) 現代的教育課題に則した教育研究の成果の還元と新たな開発
具体的な取組内容	(4) - 1 現代的教育課題に則した教育研究を推進し、その成果を地域の学校等に還元することで、研究校としての使命を果たす。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	今年度は「学びの連続性」を大テーマとして、個々の教員が研究テーマを設定し、年間を通して授業実践を通じ教育研究を行った。2月に教育実践研究集会を行い、3月に研究紀要を発行した。 また、教員が他校や施設、研究所で行われる教員研修に参加した。
学校関係者評価内容	国立大学の附属学校としての使命を果たすべく、努力を継続してほしい。教育実践研究集会の参加者が増えることを望む。
改善策	学校全体で研究を推進する体制の再構築を目指す。教育実践研究集会の参加者増加のためには、全国の高等学校や教育機関に向けて、より早い時期から案内できるよう準備を進めていく。

重点目標	(4) 現代的教育課題に則した教育研究の成果の還元と新たな開発
具体的な取組内容	(4) - 2 総合的な探究の時間や京教リベラルアーツアクティビティを活用し、本学との連携強化を推進し、教科融合型の探究活動を軸とした授業開発を推進する。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	本校の特徴である京教リベラルアーツアクティビティと授業との連携ができつつある教科が少しずつ増えてきた。また、企業等や本学教員との

	<p>連携によるアクティビティも実施できた。特に1年生は参加率が約70%と多いが、学校全体として約40%である。また、教員の講座開講率は約50%で、学校全体の取組とは言い難い状況である。日英サイエンスワークショップなど、海外との交流は継続していきたいが、資金面など大きな課題もある。また、教員の働き方の問題もあり、今後持続可能的に実施できる方策を考えていかななくてはならない。</p>
学校関係者 評価内容	<p>京教リベラルアーツアクティビティの取組が、SSH 終了以後、縮小してきている。本校の特徴的な取組でもあり、課題も明確になっているので、さらなる継続と全校生徒への浸透を図ってほしい。</p>
改善策	<p>授業としての総合的な探究の時間と課外活動としての京教リベラルアーツアクティビティの連関を深め、授業内では補えない探究活動を京教リベラルアーツアクティビティで、より深めるような取組にしていく。</p>

重点目標	(5) 学校の教育活動の情報発信の効率化と活性化
具体的な 取組内容	(5) - 1 本校ホームページを改善し、本校の教育活動をより広く効果的に発信するために、提供する情報の精選と充実を図る。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	<p>附属桃山中学校との中高一貫校に伴うホームページのリニューアルに取り組んだ。令和7年4月に新ホームページに代わる予定である。現ホームページにおいても、行事や生徒の活躍を中心に、記事を更新した。令和5年度の更新は13回であったが、6年度は33回に増加した。今後も、より効果的に発信できるよう、そのシステムを構築する。</p>
学校関係者 評価内容	<p>ホームページによる広報の効果は大きいと感じる。中高一貫校が始まったのを機に刷新されるのは大いに期待できる。</p>
改善策	<p>現在進行中のホームページのリニューアルを実現し、より多くの中学生とその保護者に、本校を知ってもらい、本校説明会に足を運んでもらえるようにする。</p>

重点目標	(5) 学校の教育活動の情報発信の効率化と活性化
具体的な 取組内容	(5) - 2 教員の共通理解のもと、小中学生・保護者や教育関係者に、本校の教育活動の特徴を具体的かつ積極的に発信できるよう、効果的な広報活動を展開する。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	<p>一般中学生向けに学校説明会3回、オープンスクール1回、入試説明会1回実施した。附属中学生向けにオープンスクールを2回実施した。また、中学校訪問や塾訪問を適宜行った。一般受検者の減少はややとどまったものの、募集定員を充足できなかった。各説明会等のアンケートでは、概ね高評価であるため、本校の存在そのものの周知を強化する必要がある。</p>

学校関係者 評価内容	受検生の減少傾向がややとどまったとはいえ、定員割れが続いているのはとても残念である。連絡進学、一般進学ともに高校のPRをより積極的、効果的にできる方法を考えてほしい。
改善策	連絡進学においては、両中学校とより緊密な連携を取っていく。特に、附属桃山中学校とは最後の連絡進学となるため、翌年度の全員進学につながる取組を考える必要がある。また、附属京都小中学校との連絡進学や一般中学校との一般進学においても、高校への受検希望者が増える効果的な方策を考えていく。

重点目標	(6) 教育環境の整備と充実
具体的な 取組内容	(6) - 1 生徒・教職員の心身の健康及び安全のため、定期的な教育環境の点検を推進する。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	定期健康診断は、学校医の協力を得て予定通り実施することができた。また、照度検査、水質検査などを実施した。生徒会厚生委員を中心に、美化点検、安全点検を行い、ホームルームの学習環境整備に努めた。ただ、ゴミの分別が不十分な点が見られ、今後も啓発活動を継続していく必要がある。
学校関係者 評価内容	教員だけでなく、生徒目線において、安全点検を実施するなど、変化を見逃さないような配慮がされており、適宜必要な対応を図る体制も整っていると感じる。
改善策	ゴミの分別については、啓発活動を継続することで、生徒自身が自律的に実行できるよう支援していく。また、更衣室やロッカーの使用について、改めて検討していきたい。

重点目標	(6) 教育環境の整備と充実
具体的な 取組内容	(6) - 2 環境整備の必要な箇所を精査し、効果的かつ効率的に整備を進めていく。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	振興会の協力により、校門（南門、東門）の改修、守衛室の改修、人工芝グラウンドのメンテナンスが実施できた。また、南門には、育友会卒業記念品として学校銘板を設置していただいた。 校内に緑地が多く、用務員1人では雑草や木々の整備が追い付いていない。業者による計画的な除草作業などが必要であるが、費用的な問題を解決しなければならない。
学校関係者 評価内容	アンケートの結果を見ると、生徒・保護者の評価が高い一方、教員の評価が低く、その乖離に疑問を感じる。教員が求める理想が高いのではないか。

改善策	学校としては、より安全、快適に生徒が学校生活を送れるようにしていかなくてはならない。校内の除草作業については、人の手では限界があり、業者による作業が必要であるが、限りある予算を効率的に使用できるよう工夫をしていく。
-----	---

### 3. 附属学校園の機能向上に関する具体的な取組についての評価

重点目標	(1) 教育研究活動の成果を公表する。
具体的な取組内容	(1) - 1 教育創生リージョナルセンター機構との連携、京都府・市教育委員会との後援により、教育実践研究発表会を開催する。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	2月に、「学びの連続性」をテーマに、米田謙三氏（早稲田摂陵高校教諭）を講演会講師に招き、教育研究実践研究集会を実施した。本学との連携、京都府・市教育委員会の後援のもと、国語科、理科、英語科、情報科の研究授業と教科別分科会、2年生の探究活動ポスター発表、国語科教員による漢文指導法の教員研修を実施した。近畿圏をはじめ全国から約60名の参加であったが、例年より少なかった。講演者の決定が遅れ、案内文の広報が遅くなってしまった。参加者のアンケートは概ね好評であった。
学校関係者評価内容	国立大学の附属高校として、教育研究の成果を発信することは重要であり、積極的な取組がなされている。
改善策	講演講師の決定が遅れないよう、年度当初より進めていき、全国の学校に向けて早く案内できるようにする。

重点目標	(1) 教育研究活動の成果を公表する。
具体的な取組内容	(1) - 2 教育委員会や学校関係者等の学校訪問を積極的に受け入れ、本校の先進的な取組を積極的に発信する。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	5月に京都新聞社より「京の高校はいま」の取材を受け、本校教育の特徴や進路実績などを発信できた。 しかし、教育委員会や学校関係者等による学校訪問はなかった。
学校関係者評価内容	本校の積極的な取組は評価できる。
改善策	国立大学の附属高校として、他の学校や教育委員会が参考にしたいと思うような先進的な研究を推進していく。

重点目標	(2) 大学と附属学校園とが連携した研究を実施する。
具体的な	(2) - 1 大学と附属学校園とが連携した共同研究「教育研究改革・改

取組内容	善プロジェクト経費」に申請し、中高一貫校として探究活動及びグローバル教育を推進する。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	<p>本学のプロジェクト経費に、本校より3本申請したが、1本のみ採用された。中高一貫校にかかわるグローバル教育に関する研究は採用されなかった。一方、理科を中心に探究活動に関して大学と高校のみならず、中学校、小学校も含めた、一貫した探究的な教育について検討が始まった。</p> <p>一方、本校独自で5月に台中女子高級中等学校との交流事業を継続しており、両国の文化交流や互いの課題研究発表を行い、意見交流を実施した。今年度は、一部生徒のみの交流にならないよう、昼休みに全校生徒参加のもと、生徒会や合唱部による歓迎会を行った。現1年生(60期生)より研修旅行の訪問先を北海道方面から台湾方面に変更し、台中女子高級中等学校も研修先の1つになっており、双方の交流が実現する予定である(令和7年11月実施予定)。</p>
学校関係者評価内容	中高一貫校の柱となる取組であり、積極的にすすめていくことを期待する。研修旅行の訪問先が海外になるのは、喜ばしいことである。
改善策	大学との連携が、教科により差があるため、教育研究交流会議をはじめ、大学教員と高校教員がより積極的に交流できる機会を設けていく必要がある。また、中高一貫校の教育課程を完成させなければならず、大学の教育課程の専門家に協力を仰ぎたい。

重点目標	(2) 大学と附属学校園とが連携した研究を実施する。
具体的な取組内容	(2)-2 総合的な探究の時間や京教リベラルアーツアクティビティにおいて、本学学生及び院生の教員養成の場として活用するとともに、大学教員との連携・研究を進める。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	理科、保健体育科、家庭科の授業や京教リベラルアーツアクティビティにおいて、本学教員や施設の協力のもと実施することができた。また、数学科や英語科においても本学大学院生の協力を得るとともに、教員養成の場として活用することができた。
学校関係者評価内容	教育実習の実践校として、その使命を果たし、積極的な取組がなされている。
改善策	今後はより多くの教科で大学との連携を強め、大学院生の協力を得て、探究活動を推進していく。また今年実現できなかった、本校に隣接する国際交流会館に協力を求め、授業や京教リベラルアーツアクティビティを充実させていきたい。

重点目標	(3) 総合教育臨床センター学びサポート室と連携する。
------	-----------------------------

具体的な取組内容	(3) - 1 特別支援教育コーディネーターを指名し、学びサポート室との連携をより深め、特別な配慮を要する生徒への支援並びに希望進路実現に向けた教育を実践する。
自己評価区分	A：十分達成できた
自己評価内容	年度当初に特別支援教育コーディネーターを指名し、学びサポート室との窓口として機能を果たし、連携がさらに深まった。特別な配慮を要する生徒への支援方法の相談など、大いに参考になった。一方、そういった生徒の状況を、より早く教員間で共有する仕組みが必要であることを実感した。
学校関係者評価内容	学びサポート室との連携が強化されたことは大いに評価できる。今後、支援の必要な生徒が増えてくることが予想されるので、より一層の連携を期待したい。
改善策	学びサポート室との連携強化を図るとともに、教育相談会議を充実させ、教員間で生徒情報を共有し、チーム学校として、特別な配慮を要する生徒の支援を強化し、希望進路の実現を果たす。

重点目標	(3) 総合教育臨床センター学びサポート室と連携する。
具体的な取組内容	(3) - 2 学びサポート室の協力により、特別支援教育に関わる教員研修を実施する。
自己評価区分	C：十分には達成できなかった
自己評価内容	昨年は、学びサポート室の協力により、教員研修を実施できたが、今年度は実施できなかった。支援を必要としている生徒は増加してきているので、研修の必要性は高く、今年度は本学外から講師を招き教員研修を実施した。
学校関係者評価内容	特別支援教育にかかわる教員研修は実施できているので、評価はもう少し高くてもよい。
改善策	特別支援教育にかかわる研修の実施は継続し、常に教員の意識のアップデートが必要である。

重点目標	(4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取組を推進する。
具体的な取組内容	(4) - 1 学校業務の現状を分析し、分掌組織の適正化、会議の精選を図るとともに、IT ツールの活用による業務の効率化を推進する。
自己評価区分	C：十分には達成できなかった
自己評価内容	非常勤講師も含め、教員全員に業務用 iPad を貸与することはできたが、教員の働き方という観点での活用としては不十分であった。また、本学の Google アカウントを活用し、年度途中からではあったが Google Chat の運用を開始し、教員間の情報共有をよりスムーズに行うことができるよう

	になりつつある。
学校関係者 評価内容	働き方改革は教育界だけの課題ではない。中でも世の中の教員に対する目は厳しくなっている。できるところから取り組んでもらいたい。
改善策	できるところから、ITによる業務内容の共有化を推進していく。これにより、業務の精選を図り、働き方改革につなげていく。

重点目標	(4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取組を推進する。
具体的な 取組内容	(4) - 2 校務支援システム「ツムギノ」の活用による業務の効率化を図り、働き方改革を推進する。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	今年度より保護者とのコミュニケーションツールとして「ツムギノ」の活用を開始できた。特に電話による欠席連絡が激減し、朝日直の負担が改善された。保護者への配布文書も、紙での配布とともに電子配布に移行しつつある。一方、「成績管理」「出欠管理」「通知表」「調査書」「模試データ管理」等は、本校で独自開発した学事情報処理システムにより管理しているが、徐々に「ツムギノ」に移行させていく必要がある。
学校関係者 評価内容	出欠連絡が電話でなくツムギノでできるようになったのは保護者にとって大変ありがたい。また、配布文書なども電子配布になることで、確実に保護者のもとに届くようになった。
改善策	現行の学事情報処理システムからツムギノに移行させる内容の精選と適切な方法の検討をする。